科学研究費助成事業（特別推進研究）研究進捗評価

課 題 番 号	25000001	研 究 期 間	平成２５年度～平成２９年度
研 究 課 題 名	少子高齢化からみる階層構造の変容と格差生成メカニズムに関する総合的研究		
研究代表者名 （所属・職）	白波瀬　佐和子（東京大学・大学院人文社会系研究科・教授）		

【平成２８年度 研究進捗評価結果】

該当欄		評価基準
	A＋	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A－	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

（評価意見）

本研究は、急激な少子高齢化に伴う日本の階層構造がどのように変化し、階層格差がいかに生成されるのかを、大規模社会調査データの分析によって明らかにしようとするものである。

当初予定された SSM 本調査及びパネル調査は計画どおり進んでおり、質の高いデータが十分集まってきている。大規模な研究組織もうまく運営されていて、これから調査データを本格的に分析する作業のフェーズに進むことで、実証的で優れた研究成果が期待できる。ただし、特に少子高齢化という主題に関しての一定の理論的な研究成果は、期間内に示せるよう努めてほしい。また、国際発信力の強化について、具体的な計画を立てて、より積極的に進めることを期待する。

【平成３０年度 検証結果】

検証結果	
A－	当初目標に対し、概ね期待どおりの成果があったが、一部十分ではなかった。 本研究では、当初予定していた SSM 調査と中高年者に対するパネル調査が実施され、質の高いデータを得ることができている。また、定住外国人調査や高齢世代の手厚い調査を実施するにあたり、サンプリングや回収率など調査の精度にかかる問題に直面したと報告されているものの、SSM 調査を中心に研究代表者・分担者によって社会階層研究上の種々の領域で国内外におけるアウトプットが出されており、調査データの蓄積を含めて十分な研究成果があったと判断できる。 一方、本研究の特徴ともなる少子高齢化と社会階層との構造的連関については、理論的検討や政策的提言に接続可能な知見が現段階では十分に示されてはいな

い。世代間の資産移転や現役時代の稼得所得の格差が高齢期にも継続するといった常識的知見をさらに深掘りするような分析が求められる。また、長寿化が高齢者世帯にもたらすインパクトの一例として、前期高齢期における就業や後期高齢期における病気や介護といった現代社会の課題に対する、社会階層研究ならではの取組を期待する。